



質問者 今川 明議員

企業誘致について

問 市長の所信表明で、人口減少への対応には企業誘致が非常に重要だと思いが、触れていないのはなぜか。

答 主要施策として「人口減少への迅速な対応」を掲げ、その中で少子化対策と同時に定住性、定着性を高める対策を包括的に取り組む必要があると明記して働く場の創造や雇用支援が含まれているので、理解願いたい。

問 県と連携して、市はどのようなことを実施するのか。

答 企業が現在の景気動向に慎重であるため、設備投資に向かない中で企業誘致を進めるには、幅広い譲歩提供が必要である。県産業立地室、企業庁、ひょうご投資サポートセンターと合わせ企業ニーズに適した用地の斡

旋に努める。また、県と共同で播磨科学公園都市と周辺市町が企業立地促進法に基づく地域産業活性化計画指定区域の再指定を受けたことで、新規成長産業に認定された企業が新たに立地した場合、3年間、固定資産税が免除となり、市の工場立地促進条例と併せて優遇施策を設けている。

問 企業誘致には、トップセールスが欠かせないと思うが、どう考えているのか。

答 トップセールスについては、当然必要と考えられており、大に行う考えであるが、現在のところ、対象企業の調査を行うなど、企業誘致のための条件整備に取り組んでいる段階である。

揖龍南北幹線の北進について

問 合併直後の平成17年12月定例会、平成19年6月定例会、本年3月定例会でも質問したが、計画について県との話し合いは何回くらいしたのか。

答 県との話し合いの回

数については、3月定例会において答えたとおり、揖龍南北幹線道路促進協議会を通じて、県に対し早期のルート決定及び整備の要望をしているが、それに加えて県との事業調整会議においても話し合いをしており、今年度は合計で3回している。

問 市長の所信表明でも安全安心の確保は行政最大の責務と言っているが、新宮中学校線の拡幅がでない現在、市としてどのように進めようとしているのか。

答 この事業の必要性については、安全安心の確保の観点からも十分認識している。しかし、このような大型事業を進めるには、本市のような財政規模では非常に困難で、県の支援が不可欠である。県に対し粘り強く要望していく。なお、大鳥踏切から芝田橋間が今年度末に完了するが、工事完了後も交通量の推移等を見ながら、安全に対し万全を期していきたい。



質問者 松井重樹議員

赤とんぼ荘を新図書館&迎賓館に

問 公立高校普通科学区が再編され、現在の中二生からは姫路学区と統合される(御津町は以前から)。市内で対象となる龍野高校に対し、県立だからと、進学指導に限った問題で片付けられる程度のものではないことを指摘しておきたい。

多感な青春時代のただなか市外から進路希望してくる若人に、市内に住み育つ若人に、学び舎としてその周辺環境をも提示することは、それが彼らの気風となり故郷の思い出になり、反面彼らの存在自体がまちの活力につながるがゆえに、市としての責任でもあると考える。その意味から傍らの赤とんぼ荘の今後、次の一石を投じてみたい。経営問題もさることな

から、耐震補強はどうか。

答 赤とんぼ荘は上下二階層に分かれており、1階と3階は旧の耐震基準での建築で、近い将来、補強問題が俎上にのぼる。

問 麓の龍野図書館は、手狭に感じられるほか、駐車場が少なすぎる。

答 旧の郵便局跡地に建てたもので、駐車場は、中央公民館との併用だ。

問 赤とんぼ荘が建つ白鷺山は、市内の四方八方から認めることができるランドマークだ。志んぐ荘や新舞子荘の存続問題とは切り離し、例えば、龍高生等の学習施設を併せもつ「龍野新図書館」などの文化施設と、「迎賓館」の複合施設に建て替える新構想を提案したい。

その際、明石にある県立図書館の西館として、9月定例会でも触れたCSR整備に県へ働きかけるのも一考と思う。また、全県区の龍野北高には新田山の利活用だ。高に新田山の利活用はともかく、白鷺山一帯をさらに魅力あるものとし

て発信させたいと思う。

問 提唱された小中一貫教育とは、何か。

答 ①小学生の中学進学に対する不安感を軽減すること、②小中学校教職員間の違いを教職員同士が認めたくえで互いに学びあい、義務教育9年間で育てるという発想の指導。中学教員の小学校への出前授業など、小中連携として既に進めている。

問 JR龍野駅の機能に今後何を期待しているか。

答 主要鉄道の玄関口として、利用者の利便性と、駅を含めた周辺施設の整備による集客をともなう活性化である。

文化とは

問 文化についての伝え方をうかがいたい。

答 概念的には、人間の営みから培われた人類全体の生活様式の体系と解釈している。市内には121団体約4300名をもって構成する「文化協会連合会」がある。